

地域密着型特別養護老人ホームわかば
令和8年度 第1回 運営推進会議

| | |
|-----|----|
| 施設長 | 作成 |
| | |

| | | | |
|--------|--------|--|----------------|
| 開催日時 | | 令和8年4月23日(木) | 午前11時～午前11時50分 |
| 開催場所 | | 特別養護老人ホームわかば 1階 会議・研修室 | |
| サービス区分 | | 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 | |
| 出席者の状況 | 委員（職種） | 委員数（7）名／出席（7）名 | |
| | | （利用者代表） | （家族代表） |
| | | （地域代表） | （市町村職員） |
| | | （第三者委員） | （知見を有する者） |
| | 職員（役職） | （特養わかばイースト施設長） | |
| | | （特養わかば生活相談員） | |
| | | （特養わかば施設長） | |
| 報告事項 | | 出席者紹介 ● 活動状況報告 ● サービスの質の向上にかかる事項 ● その他、意見交換 | |

次第

出席者：別添資料（スライド⑩）に構成メンバーを記載。

第1回の開催にあたり、スライド⑩記載の出席者の紹介が行われた。

● 地域着型特別養護老人ホームわかばの活動状況報告

1. 活動状況報告（スライド③～⑤）

令和8年2月～令和8年3月度期間および昨年度の稼働件数推移について報告。

● 男女別稼働件数推移

2月度は入退に伴う空床14日の稼働減（98.3%）。

3月度は入退に伴う空床24日、ならびに入院空床2日となる延べ26日間の稼働減（97.1%）。

● ユニット別稼働件数推移

先述の入退ならびに入院空床がすべてのユニットで発生。

● 要介護度別利用者数推移

2月度は入退空床への受入れが整わず、27名の在籍で終了し、3月度は29名定員に到達。

要介護度3認定者 6名（20%）

要介護度4認定者 15名（52%）

要介護度5認定者 8名（28%）

2. ユニット別平均要介護度、平均年齢（スライド⑥）

施設全体平均要介護度は4.1（女性：4.1 男性：4.0）。

年代構成としては70歳代× 1名、80歳代× 13名、90歳代× 14名。

• サービスの質の向上にかかる事項

3. 人員体制（スライド⑦）

介護職員に占める介護福祉士の割合（15名中11名＝73.0％）。

15名のうち、1名は産休取得中。

実務者研修修了者1名（介護福祉士登録証待ち）、初任者研修受講予定者2名。

4. 事業所の取組み（スライド⑧）

- 嘱託医の往診 2回／月（隔週（第1・3）月曜日）
- 理美容サービス 1回／月（不定期で追加日程を設けている）
- セブンミール 2回／月（第2・第4木曜日）開催
- 百寿表彰 2／2開催
- 開設記念行事 3／12
- 身体拘束廃止委員会 1回／月

毎月の月次部門会議やユニット会議を通じて不適切なケアを含む該当事案がないことを確認された報告が行われる。また、やむを得ない事情の場合の手順や対応についても確認を実施していることも報告される。

- 見守り支援機器等活用委員会

大きな機器の不具合等なくケアに活用できている。

5. 職員研修状況（スライド⑨～⑩）

令和7年度の研修実績報告と令和8年度の研修計画については配布報告資料の通り。

※なお、研修に参加できない職員は全員レジユメに沿ったレポート提出を義務付ける。

6. 苦情、事故、ヒヤリハットについて（スライド⑪～⑭）

- ヒヤリハット報告

配布資料の通り。通期累計報告件数としては18件。

- 事故報告

配布資料の通り。通期累計報告件数としては62件。

事故報告に関しては、事案が明確でない、寝返りなど体動の際の打撲痕等も含めており、報告件数として積み重なっている状況の報告が行われた。

- 苦情に関して、施設やケアに対する苦情の受付や相談はなし。

- ヒヤリハット分類（通期）

内訳として転落・転倒・誤薬分類が9.5％、次いで異食・誤飲・その他が4.8％。

誤薬の内容として、口に入れる際に落下させてしまう、手渡したのちにご自分で服用されていた薬剤が床に落ちていたなども挙がっている。特定技能介護職員の服薬支援に

において、別のお客様のお薬を渡してしまう事案が発生。

事故分類（通期）

内訳として外傷47.5%、転倒22.0%、転落18.6%、離苑・誤飲が3.4%。

- 転倒事案として、車いす自乗のお客様がドアを開けようと体勢を崩され床に転落。施設備品の車いすとお客様の体格が相応しくなく、姿勢崩れが見られていた為、姿勢崩れが起き難いポジショニングを行う。→以後、車いすからの転落はなし。

● 参加者からの意見・ご提案等について、

（ご家族様代表）

母の健康が心配であったが、良好に過ごされており安心。入所前にショートステイ利用していたが、都度、電話で対応を求められ不安が絶えなかった。現在は母の顔を見る度、安心していられる。

（市基幹包括支援センター職員）

令和8年4月からの各地域包括支援センターの人員体制と基幹報告が正庁から鶴舞会館へ移転した報告が行われた。

（地域住民代表）

事故報告より、服薬支援の間違えた要因は何か。

薬袋に印字された漢字の氏名の判別が難しく、誤ったもの。印字が漢字のみのお客様の認識が難しいため、顔の確認と合わせて指導継続。

（第三者委員）

「言葉の綾」、「気遣い」、「人に対する心遣い」として、ご自身の治療における体験談を語られる。

また、待機者の状況報告について、背景の質問が行われ、圏域の要介護者状況やサービスの需給について、回答。

（相談員）

（特養わかばイースト施設長）

次回の開催予定月は偶数月の6月度の開催として調整。